

登録番号 第 22420 号

MIC スウィープ®フロアブル

- 特長：
- 移植前または移植直後から使用できる高性能の初期除草剤です。
 - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
 - ノビエはもちろん、オモダカ、クログワイ等の多年生雑草の初期発生を抑え、その後の体系処理剤の効果を安定させます。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・20.0% ペントキサゾン（化管法第1種）・・・4.0%	包装	500ml×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2016年08月24日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピラゾレートを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ	植代後～ 移植前7日 又は 移植直後～ ノビエ1葉期 ただし、 移植後30日まで	500mL/10a	1回	原液湛水散布 又は 無人ヘリコプター による滴下	2回以内	2回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。
- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの1葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカは発生始期まで、クログワイは発生前までが本剤の散布適期である。
- (5) オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、オモダカ、クログワイに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (6) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (7) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (8) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。移植後に使用する場合は、止水期間中の入水は静かに行うこと。

- (9) 本剤を無人ヘリコプターによる滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
 - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
 - 4) 隣接する圃場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人ヘリコプターによる本剤の滴下は行なわないこと。
 - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
 - 6) 薬液滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
 - 7) 本剤の滴下に使用した無人ヘリコプターの散布装置は、水稻以外の作物への薬液散布には使用しないこと。
- (10) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - 2) 軟弱な苗を移植した水田
 - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
 - 4) 稲の根が露出している水田
- (12) 移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意すること。
- (14) 本剤はその殺草特性かられんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかからないようにすること。
- (16) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。また、処理薬剤は残さずに使い切ることに。
- (17) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (18) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人ヘリコプターによる滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。